

<九州P-10>

かたむき

傾

やま

山

(1605m)

日本300名山

山頂は鋭く尖った双耳峰

2017年9月29日(金)晴れ

<アクセス>

大分県のR502を緒方町からr7に入り道の駅・沢尻の滝を過ぎて20Km先に大きな「傾山登山」の標識がある。ここを左折して3.5Km先に九折（つづら）登山口がある。30台可能な駐車場と立派なトイレ付の休憩所がある。

<コース> 実歩行 9時間 25分

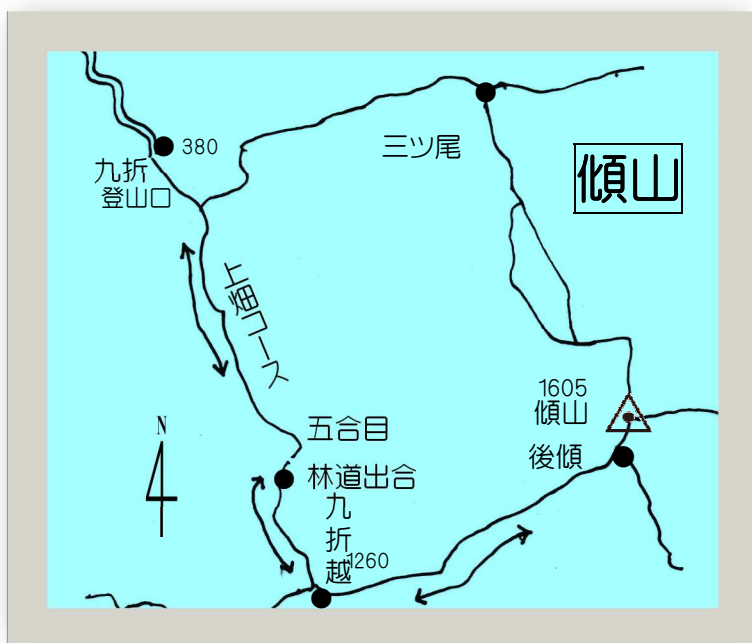
九折登山口（6:05）→（6:20）分岐→（8:33）五合目林道出合→（9:35～45）九折越→（11:20～30）傾山→（13:45）五合目林道出合→（15:50）九折登山口

登山口から林道をまっすぐ進む。すぐ崩壊した橋に出るが、針金でつるした幅30cmほどの水路の土管の上を10mほど慎重に渡る。さらに林道を進むと右に四角い大きな貯水槽が現れ、その先を右折した登山道に入る。鉄製の青い橋を渡り九折川の左岸を進む。河原を離れると急傾斜でロープやハシゴ、クサリがあり慎重になる。赤テープを確認しながら登る個所が多くなる。九折川の上部の谷の大石を越える。渡渉は5回ほど、赤テープを見失うと前の赤テープまで戻り前へ進む。迷うこと数回、そのため五合目林道出合までに余分な時間を費やしてしまった。途中で追い越された40人の自衛隊員はとっくに声も聞こえなくなっている。やっと林道に出て一安心。小休止する。

林道を左に20m進むと右に登り口があり、ここから九折の始まりである。樹林帯の中、登山道へははっきりしている。大きくジグザグに1時間半ほど登るとようやく九折越に着く。このあたりの標高は1300mである。

ところで、標高の標識が800mあたりから100m間隔で設置されており、1605mの頂上まで「あと標高差500mか」などと考えながら登れるので助かる。

九折越から見る傾山は道の駅・沢尻の滝方面から見る右に少し傾いた優しい山とは異なり、山頂は岩が鋭く尖っていて険しく、右に後傾、左に傾山の双耳峰である。



九折越から左折して緩やかに鹿除けのネット脇を進む。

リンドウの花が道端に多く見られるようになる。後傾の急登が始まると自衛隊員が降りてきた。若さに任せ勢いがある。右の岩側によけて 40 人に下りてもらう。目前で突然ソフトボールくらいの落石があり、女子隊員の腰あたりに当たったが軽傷のようだった。

後傾が近くなると岩場で慎重になる。いったん下って登ると傾山山頂である。

傾き山山頂・・・祖母山、阿蘇山、九重連山が一望できる。三角点（2等?）がある。

帰りは往路を戻る。M 記



沢尻の滝付近から見た傾山(中央)



大きな水槽・この先右折



青い鉄橋を渡ります



九折越方面へ



急登です



やっと 林道に出る



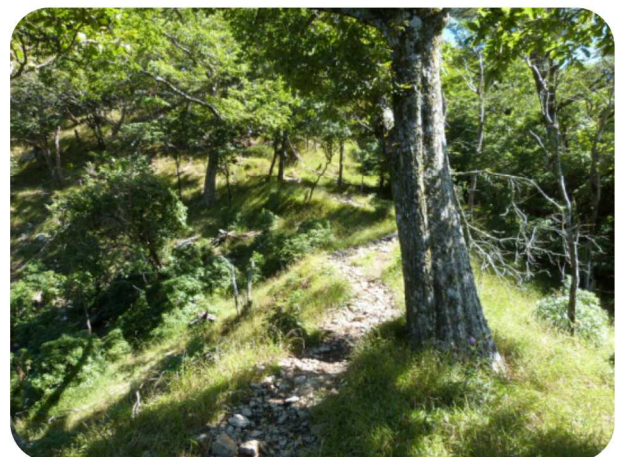
林道に出て 20m先右へ上がる



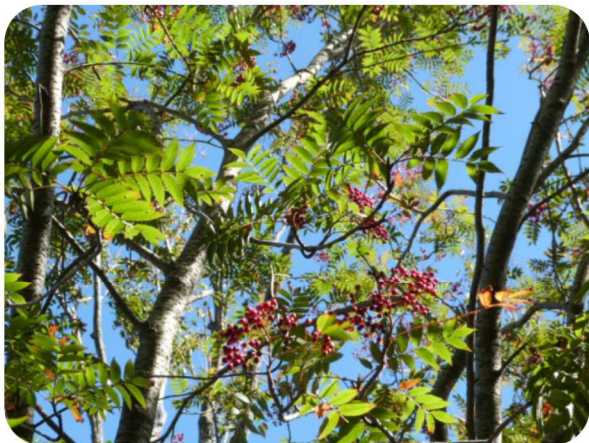
九折越です



傾山は双耳峰でした



このあたりルンルン気分で歩く



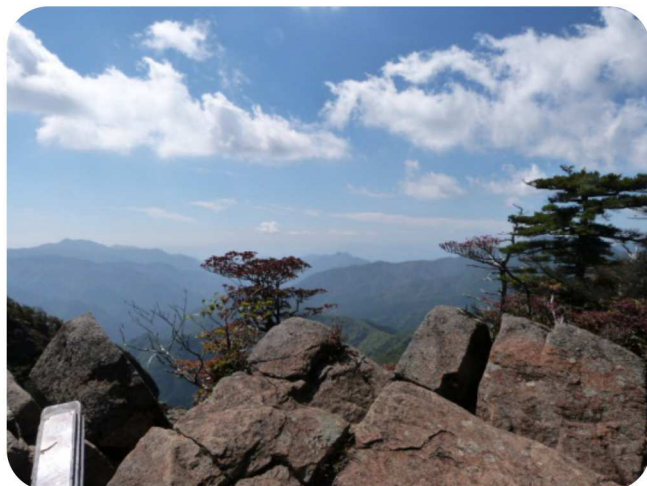
ナナカマド?がきれい



傾山 山頂



山頂からの展望①



山頂からの展望②



一等三角点です